



1



4



3

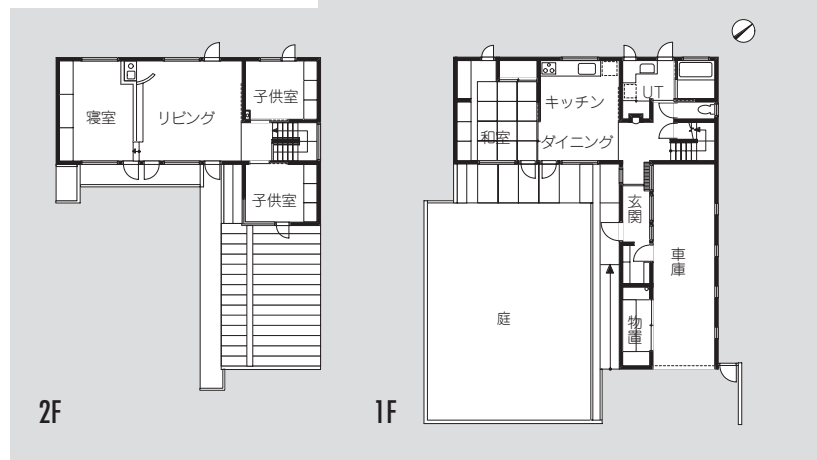


2

- 1 北と南両面の窓から、四季の変化を楽しむ2階リビング。棚の向こうは寝室。アーチ型にブロックガラスで囲まれているのは、小さなキッチン。
- 2 室内からガラス越しに愛車が見える。大好きな車と暮らす感覚は、男性にとっての本望。
- 3 2階リビングから庭を見る。引き渡し後、オーナー自らが土を掘り、砂利を入れ、完成させた力作。
- 4 食事はお母さんの部屋の隣にあるダイニングで。日に何度も家族が集う。

設計者からの一言 飯岡 哲司

車が好きなオーナーの希望の一つは、愛車を眺めて暮らせるシチュエーション。それをかなえつつ、北側の防風林、南側の庭の樹木や花を室内から眺めて暮らす「目が喜ぶ生活」を目指しました。構造は車庫と玄関まわりをRC、住居部分を木造としました。また、室内にガラスブロックを使い、表札用の英字やアンティークの飾りをRC壁に取り付けるなど、いろいろな要素が盛り込まれた住宅です。脇坂工務店の丁寧な仕上げに、技術力の確かさと万能ぶりを再確認しました。



設計監理

一級建築士事務所

atelier i / あとりえ・あい
飯岡 哲司

施工



(有) 脇坂工務店

☎ 0120-711-525

本社営業部 小樽市銭函2丁目43-9

TEL 0134-61-2488

本店 札幌市東区北11条東4丁目5番地

TEL 011-785-2088

http://www.wakisaka-EO.com

RCの存在感に、濃いネイビーの外観が調和する。窓の周囲、グレーの鉄骨がアクセント。水盤のあるアプローチの上には底を設けた。

NEO
DESIGN
HOUSE



庭を囲む L字型のデザイン住宅



室内に入ると、コンクリートの質感から一転して柔らかな木質に。70代の母が暮らしやすいよう、1階で全てが事足りるプランが練られた。母の部屋は南側の庭に面して配置し、その隣に家族が集うダイニング・キッチン。水まわりも1階に集中させた。2階はリビングを中心に、左右に子ども部屋と寝室という間取り。建具は1〜2階とも天井までの高さのある引き戸を多用し、壁に収納されれば広々とした一体の空間となる。

コンクリートの現代的な趣と、珪藻土や木が用いられた室内の自然な空気感。アプローチからはじまった対比の妙が、暮らしのエッセンスとなっていることを感じさせる家である。

現代的な表情と自然な空気感

庭と車2台分の車庫。その両立のため建築家の飯岡哲司さんが提案したのが、L字型のプランだった。「少しでも庭を広く」という希望を優先し、車庫はあえて縦列型とした。

奥行きのある車庫に沿って、長いアプローチをレイアウト。右側面にはRCの無機質な壁が続き、玄関ドアもその雰囲気と溶け込むようなしつらえだ。それとは対照的に、アプローチの左側は開放的な庭。その対極性が面白い。

さらに庭との境には水盤が設けられており、水面に反射する光が、訪れる者の目を引きつける。